

### (点検・評価の結果)

目標はおおむね達成されているが、発表機会、媒体が必ずしも十分に利用されているとは言えない。こうした発表機会・媒体を利用して、研究発表を行うことは、研究内容について外部評価を受ける格好の機会であるので、今後一層の利用促進を促す必要があろう。

### (改善の具体的方策)

今後も、目標に掲げた諸点の達成状況を継続的に監視していく必要がある。特に発表機会・媒体の利用促進に関しては学生への周知の再徹底を行うとともに、博士課程に進学するものに対しては、修士論文で得られた研究成果を大学院研究紀要に投稿することを義務付ける等の方策を検討する。

## 8.2.3.5 教育の質の向上

### 【評価項目6-5-1】 教育改善への組織的な取り組み（教育・研究指導の改善）

- (必須要素) 教員の教育・研究指導方法の改善を促進するための組織的な取り組み状況
- (必須要素) シラバスの作成と活用状況
- (必須要素) 学生による授業評価の活用状況
- (選択要素) 学生満足度調査の導入状況
- (選択要素) 卒業生に対し、在学時の教育内容・方法を評価させる仕組みの導入状況
- (選択要素) 高等教育機関、研究所、企業等の雇用主による卒業生評価の導入状況

#### <2003 年度に設定した目標>

1. 教材用ネットワーク・ドライブ、情報倉庫の活用促進
2. 詳細なシラバス作成の継続

### (現状の説明)

本研究科では、講義用の教材等を保存し学生に公開するためのネットワーク・ドライブを構築している。学生は、講義や実習等で必要な資料やデータ等の教材をいつでも取り出し活用することができる。また、このネットワーク・ドライブは、履修していない講義科目についても、そこで使われている教材を見ることができるため学生の授業選択・個別学習のためのよい資源ともなっている。

これに加えて、教員ごとに「情報倉庫」がサーバー上に構築されており、教員と登録学生の間で論文や資料、データ等の共有が可能になっている。

本研究科では、発足当初より詳細なシラバスを作成し全学生に配布している。現在、シラバスはネット上でも常時閲覧可能である。

学生による授業評価については、授業のほとんどが少人数で行われるため授業評価を行うか否かも含め教員の個別の対応にゆだねられているのが現状である。ただし課題研究では複数の教員が担当するため、教育効果の改善に向けて教員相互で継続的に議論が行われている。

### (点検・評価の結果)

教材用ネットワーク・ドライブは、講義等で利用される教材をいつでも取り出せ、予習や復習あるいは宿題を行う上で有効に機能している。また、学生と教員との間で情報共有が可能な「情報倉庫」は、特にフィールドワークを行う場合に、さまざまな資料を共有するための重要な手段となっている。シラバスに関しては、すでに詳細なシラバスが毎年作成されており、この体制を今後も継続していくことが求められる。

授業評価に関しては、実際にそれがどのように活用されているのか見えにくいところがある。少人数の授業もありアンケートとは別の形式の授業評価方法についてさらに検討を継続する必要がある。

### (改善の具体的方策)

少人数クラスの授業評価方法についてその必要性も含めて具体的な検討に着手する。

## 8.2.3.6 学位授与・課程修了の認定

### 【評価項目 6-6-1】 学位授与

- (必須要素) 修士・博士の各々の学位の授与状況と学位の授与方針・基準の適切性
- (必須要素) 学位審査の透明性・客観性を高める措置の導入状況とその適切性
- (選択要素) 修士論文に代替できる課題研究に対する学位認定の水準の適切性
- (選択要素) 学位論文審査における当該大学(院)関係者以外の研究者の関与の状況
- (選択要素) 留学生に学位を授与するにあたり、日本語指導等講じられている配慮措置の適切性

### 【評価項目6-6-2】 課程修了の認定

- (必須要素) 標準修業年限未滿で修了することを認めている大学院における、そうした措置の適切性、妥当性

#### <2003 年度に設定した目標>

1. マスター・セミナーおよびディサテーション・セミナーの位置づけをより一層明確にすることにより、論文執筆指導を強化する。
2. 博士学位については、博士後期課程完成年次以降できるだけ早急に学位を出せるよう、指導体制を強化する。
3. 博士学位審査において少なくとも1名を外部の審査委員とすることを検討し、論文の質および審査の透明性の確保を図る。
4. 高度専門職業人養成コース、研究者養成コース等、学生のニーズに合わせたコース設定、学位授与の方法等について検討を開始する。
5. 学部での成績優秀者に対して前期課程への「飛び級」を制度化する。

### (現状の説明)

1999年度に修士課程が設置されてからこれまで、216名に修士学位が授与された。また、2001年度に設置された博士後期課程では、2004年度までに3名の博士学位を授与した。このように学位授与はほぼ順調に行われている。